

## 武蔵村山市第五次長期総合計画（基本構想）パブリックコメント結果

### 1 実施期間

令和 2 年 3 月 2 0 日（金）から 4 月 1 9 日（日）まで

### 2 意見件数

2 件

### 3 主な内容

- モノレールの検討について、懸垂式も検討してはどうか。神奈川県や千葉県では見るが、東京都内では見たことがない。
- まちづくりの基本は「移動」を想定することであり、市内全域における「移動」を施策に反映する必要がある。
- 公共施設整備について、教育施設については築年数の古い順に更新する方向が良いと思う。しかし、市役所庁舎等の市の施設は、維持管理費のみで統廃合を検討するのではなく、市民の「移動」の負担を軽減する視点を持って検討する必要がある。その、「移動」についても、現在の市の姿を基に考えるのではなく、将来の土地利用や人口分布などを考慮して検討することが不可欠である。
- 長期総合計画は「少子高齢化」や「持続可能なまちづくり」を主幹として構成されているが、これからのまちづくりを検討するに当たっては柔軟な視点が必要であると考える。

#### 1 都市整備

モノレールの延伸による人口増加を想定し、土地開発の方針を明確にする必要がある。比較的地価が安い狭山丘陵周辺の開発は抑制し、モノレールの沿線となる地域の開発を促進し、コンパクトシティを実現することで車移動中心の生活を改善する必要がある。

#### 2 都市農業の保全

現在、市内の農地は減っている中で、多摩開墾が最重要な農地となっているが、これは横田基地の存在という外的要因による保全である。今後の生産緑地の取扱いについては、ただ単に申請による手続きによるものではなく、将来の農業の在り方という視点を持って、計画的に都市農地の保全を図るべきである。

また、現在、観光施策の中心は果樹園が中心となっている。武蔵村山の伝統的な食文化であるうどんをもっと大切にし、市内での小麦の生産からうどんの製造までを一貫して行うことで、農業体験からうどん教室などの交流の機会が生まれ、コミュニティの発展にも資するものであると考えます。

#### 3 議会制度の見直し

無投票選挙や定数削減など、議会では取り扱いにくい内容こそ、総合計画に盛り込んで、行政として歳出の削減に取り組み一般財源の確保を図るべきである。

- 総合計画の策定は、市にとってのチャンスを生かせるか否かを方向付ける指針である。想定されるあらゆる可能性を考慮し、柔軟性をもった的確に策定していただきたい。